

天橋立 名松リバーズだより



No. 3

2005年4月発行

編集・発行
天橋立名松リバーズ
実行委員会・事務局

〒626-0001
京都府宮津市文珠437
天橋立総合事業（株）内
TEL 0772（22）5304
FAX 0772（22）5305
http://www.tango.or.jp/re-birth/

■松材の管理、着々と進む！

松材管理部（松井部会長）

京都府のご理解と支援の下、懸案の松材の管理が地元企業（YAKIN大江山・加悦興産・（株）のまの・松井物産など）の倉庫提供（無償）のご協力を得て、多くの松材の管理が着々と進んでいます。関係者のみなさんに心より厚くお礼申し上げます。

さて春を迎え、一日ひと暖かくなってきましたが、虫対策などこれからが大変です。みなさんのご協力をよろしくお願いします。



▲大きな松材の搬入
（加悦興産倉庫）



▲一時選別（（株）のまの）

●伊藤先生（京都樹木医会会長）のご指導、ご協力の下さる3月18日（金）岩滝倉庫におんどり計（温度・湿度）を設置しました。チョット安心！みなさんも、どんな松があるか現地に行ってみてください。倉庫の鍵は事務局まで言って下さい。



▲いろいろな形の小物の松材
（岩滝）



▲おんどり計設置



▲松の根っこ

みなさんへお願い

松の根っこの管理
今後の活用の仕方
など、みなさんから
積極的なご意見をお
寄せ下さい。

■3月17日（木）研修会開催（府中の郷於）

伊藤 武氏（京都樹木医会会長）

「松はなぜ倒れたか」

―台風23号による被災の解析―

去る3月17日（木）午後7時より、京都樹木医会長伊藤先生をお招きして約30名参加の下、右記をテーマに研修会を開催しました。

伊藤先生は、長年にわたって天橋立の松の木を、木の医者さんの立場から見守っていただいています。

先生は、天橋立には106種のキノコが生息していること、今回は悪い腐性のキノコが多い所で松が倒れていること、根がちぎれ、松たちが土の中でどれだけ苦しんだかや、その原因と今後の対策、又、500年前雪舟が描いた「天橋立図」の松の数が約880本だったこと、昭和7年では3100本など、約一時間にわたって興味深いお話をわかりやすくしていただきました。

多くの質問にも丁寧に説明していただき、寒い夜でしたが、熱気のこもった研修会になりました。松の生態について、今までいかに無知だったかを教えられると共に、今後はもっと勉強しようとする参加者一同心しました。



第2回 伊藤先生のお話ご案内

とき 4月25日（月）pm7:30
ところ 文珠公民館於

※ リバーズメンバーはもとより、一般の方のご参加を、心よりお待ちしております。

いよいよ創作へ！！

みんなの知恵と汗を集め、倒木した
天橋立の松に新しい命を吹き込もう！

創作部会（西川部長）

■3月27日（日）第4回創作部会開催

松材管理部会の努力のお陰で、管理の面はまだいくつ
かの難問題がありますが、おおむね見通しがついてきま
した。いよいよリバースドラマのはじまりⅡ創作です。
楽しいことするんだから、楽しく取り組みましょうというこ
とで、3月27日文珠公民館で部会を開催しました。でも本
音を言えば参加者が少なかつたのがザンネン！

当日、応募要項など
を決めました。4
月1日の実行委員会
で発表します。



▲龍燈の試作品

●アート&クラフト実行委員長、今井一雄氏と 創作について打ち合わせ

創作の応募などのスケジュールについて
3月18日、今井氏、島村顧問、西川部長、
幾世委員長、山本事務局長とで打ち合わ
せ会を持ちました。

■4月10日（日）

”クリーンはしたて大作戦” チエーンソーアート開催

恒例の、天橋立一人一坪大作戦とタイアップして、リバ
ース実行委員会では、創作部会事務局主導の下、倒木し
た松を使ってチエーンソーアートを催します。当日3人
のアーティストをお招きしています。多数のご参加を！

▼午前9時 クリーンはしたて

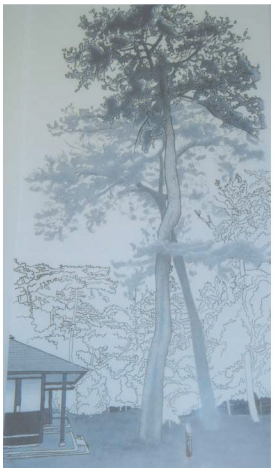
▼午前10時30分 小天橋広場於
チエーンソーアート

※詳しくはチラシ（実行委員会作成）を
ご覧下さい。

●イラストレーターいさかつじ氏（東京在住）から 5作目の作品が寄せられる

天橋立の松を描いていたでいる、いさか先生から5
作目の力作が届きました。

千貫の松、大正天皇お手植の松、式部の松、双竜の松、
蕪村の松の松が揃いました。



元氣なときの
蕪村の松です。
いさか先生
ありがとう
ございました。

●3月18日 片岡鶴太郎氏個展（東京於）

山崎友彦幹事が、お礼もかねて出席。

「ただただ、すごいなーと感動した」とのことです。

※片岡鶴太郎氏は、リバースを応援していただいています。

●3月30日 斉藤吾朗氏個展（名古屋於）

島村顧問、幾世、山本が行ってきました。

天橋立での個展開催を約束していただきました。

竹内氏の紹介で、燻煙乾燥木材をされる方、流木作家
たちとも交流しました。



▲台風で倒れた双竜の松



▲雪の天橋立

ビジョン部会よりお願い（細井部会長）

ただ今、2月1日のフォーラム、伊藤先生の講演、リバ
ースの事業計画、一口メッセージなど「天橋立名松リバ
ースの歩み」（中間報告）を編集中です。みなさんの投
稿をよろしく願います。

400字3枚以内 4月15日までに事務局へ

●特報！ 天橋立名松リバース事務所

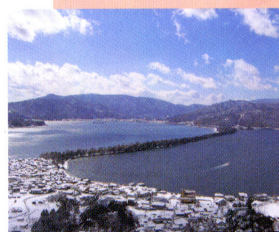
天橋立駅横（天橋立郵便局前）に移設

天橋立総合事業（株）の全面的協力により4月下旬、右
記へ事務所を移設します。近々ご案内しますので、事務
所新設についてみなさんのボランティア協力をお願いし
ます。

編集後記

大変お世話になりました京都府丹後土木事務所長松田氏、赤坂室長そして
リバース実行委の石川総務部長が異動されました。とっても残念ですが、
今後のご活躍とご健康をお祈りし、お礼の言葉とさせていただきます。

倒れた松の再生から地域づくりへリバーズ！



天橋立

平成16年、日本列島はこれまでにない数々の自然災害に見舞われました。台風の上陸数の多さ、新潟中越地震。被害からの復旧の苦労と、なかなかもどらない客足、また、被害の程度にかかわらず、イメージ的なダメージなど風評被害という言葉も例年より多く聞かれました。一方、「うちは大丈夫です」と積極PRしているものかどうかとまどいもあったのではないかと思います。

10月20日、台風23号は天橋立を直撃し、樹齢300年をこえる松の太木がおよそ200本、根こそぎ倒れました。しかし、地域の人たちはそれら倒れた松の木を片つけながら、「天橋立名松リバーズプロジェクト」を立ち上げました。大きな自然災害でしたが、今、天橋立は、自然の教えを受け止めながらも「リバーズ」というエネルギーに満ちています。

1. 倒れた松はゴミではなく

天橋立は、大江山の麓を流れる野田川から押し流された砂を海から押し返してできた砂嘴（さし）で全長は3・6キロあります。大小8千本の黒松と白砂の風景が古くから多くの文人に愛されてきま

した。日本三景と呼ばれるようになったのは約350年ほど前、当時の学者・林春斎が「日本国事跡考」に「丹後の天橋立、陸奥の松島、安室の宮島を日本三景」と書いたのが始まりと言われています。またその風景は遠くから鑑賞するだけでなく、砂州に続く松並木は、日本の松・百選、日本の道・百選、白砂青松の百選、日本の名水百選にも選ばれるなど、散策コースとしても優れた環境を有しています。

さて、台風から3日後、これまでも地域のシンボルである松を守ろうと活動してきた「天橋立を守る会」や地元観光協会などを中心に200名が倒木の清掃作業を開始しました。その後、地元小学校児童や地域のボランティアも加わり、一週間ほどで松林はもとどおりの静寂さ美しさをとりもどしました。しかし、これら清掃作業を通じて地域の人にはこれまでにない強いメッセージを受け取ったというのです。寿命、雪害や松食い虫の害で倒れた松と異なり、台風になぎたおされた松からは、「倒れていても生きていく」という命の強さを強く感じた。なんとかこれをもういちど生かすことはできないのか、re-birth



倒れた松



倒木を清掃作業中



現在、実行委員会は松の利用アイデアや創作への参加、またリバーズ基金への協力を

①モノコメント、案内板などで再生を実行委員会は、天橋立内に展示するモノコメントや遊具、案内板など公共的に

2. 「リバーズ」再生の思いは地域へひろがる

（再生）という言葉に関心が集まってきました。台風から2週間、「天橋立名松リバーズ実行委員会」立ち上げ構想が動きだし、11月15日には第1回の実行委員会を開催、そのプロジェクトは発足しました（委員長 幾世淳紀氏）。

再利用しようと考えました。といっても、天橋立は府立公園であり、倒れたからといって誰でも自由にその松を再利用できません。すぐに京都府など行政、関係団体への依頼、交渉を進め、素早い協力体制ができあがりました。また、松は加工できるようなるまで約1年間の乾燥期間が必要とわかり、保管のための倉庫（と費用）が必要になってきました。当面無償での保管を申し出る地元企業もあらわれてきています。

実行委員会は青年会議所、商工会議所などが構成団体として加わり、自治会、樹木医、地元在住の陶芸家、クラフト関係者、製材所など多岐にわたるメンバーが80人ほど委員をつとめるという市民運動的性格の強いものになりました。天橋立、松並木が観光客にアピールする観光資源であると同時に、地域住民にとっても大切なシンボルであったことがよくわかります。



実行委員会

呼びかけており、今後の活動には注目が集まります。

(<http://www.tango.or.jp/rebirth/index.html>)

②シンポジウムでリバース宣言 地域つくりとの融合

「この松を再び生かしたい」という思いと同時に、根こそぎ倒れた松の根が想像以上に浅かったり、はり具合が小さかったことにも驚きの声がありました。「どうしてこんなに倒れたのだろうか？松にとって天橋立という環境はどうだったのか。何か対策が必要だったのか。できることがあるのではないか？」

リバース実行委員会は、天橋立公園ビジョンの作成と提言をとりまとめる必要性にも気づき、その事業計画に

①松の生態の調査・研究と具体的提言

②天橋立公園のビジョン作成と提言

③天橋立をテーマとしたシンポジウムの開催

を盛り込み、早速2月1日、宮津市・歴史の館文化ホールで「天橋立名松リバースフォーラム」松が未来に遺すもの」を開催しました。

フォーラムの基調講演では、農学博士の小川真氏が「密生と過保護により、根を十分張らずに大きくなってしまう比較的小さい木々が倒れた」と、自然と人間とのかかわりを見直すこと、あらためて環境問題を地球全体の最重要課題ととらえる



シンポジウムの様子

べきことを訴えられました。

また、パネルディスカッションでは、宮津出身の作家で、横浜で浜辺の再生に取り組むNPO活動をしている山崎洋子さんと画家の斎藤吾朗さんが、「松の再生は、それにかかわる人の再生であり地域づくり。市民がどうかかわるかにかかっている」と話しました。

これに対し地元から登壇した宮津商工会議所副会頭の今井氏は「以前、アメリカのモントレイ、カメルなどを視察して感銘を受けた。我々も松と共に生きていく町をつくりたい」、また、観光協会青年部の森氏も「雪舟が描いたまちづくりに取り組みはじめたところで、まちなかに天橋立をイメージするものがないと議論していた」と発表し、これまで、あつて当たり前だった地域の素晴らしい自然や歴史をもう一度見直し、もっと積極的に地域づくりにかかわろうというムードが盛り上がりました。

フォーラムの最後には、次のようなりバース宣言が発表されました。

一、「雄大な自然の中に、人と松がすこ

やかに生きる空間を、ここ天橋立に創り出そう」

一、「災害の経験を糧として、ここ天橋立を未来に残し、地球環境の危機を告げる警鐘の地としよう」

一、「日本三景、天橋立の白砂青松をとりもどし、地域の大いなる財産を子孫に伝えよう」

ともすれば倒れた松の清掃作業だけに終わってしまったかもしれない台風被害を、3カ月足らずでこのように展開してきたそのスピードと結束力には目を見張るものがあります。

3. 歴史や文化もある 温泉も

その理由の一つには、天橋立の松を守る運動の歴史の古さがあげられるでしょう。塩害、雪害、松食い虫などで失ってきた松は多く、その都度、地域の人たちは片づけと植樹を行ってきたそうです。

しかし、宮津市、天橋立地域の観光魅力づくりへの模索や懸命な取り組みの積み重ねも背景にあったといえそうです。

①天橋立温泉・開湯5年

「日本三景」という非常に大きな誘致力をもつ観光資源・天橋立に全面依存することなく、様々な工夫がなされてきました。

天橋立を散策コースとして親しんでもらおうという試みは、最近にはじまったことではありません。12年ほど前には、名称を公募して蕪村の松、式部の松といった縁の文人などにちなんだ名前をつけ、散策の楽しみを提案してきました。

旅行商品、旅行雑誌の企画の担当者から「温泉がないとねえ」という声が頻繁にきかれるようになってきてからは、民

間（文殊地区の旅館）主導の運営により11年12月温泉を掘削し、温泉地としても認知されるようになりました。さらに歩いて楽しいまちにしたいと、平成14年には地域住民の出資と行政の補助により外湯「知恵の湯」も開業させています。

開湯5年、その効果をきくと、日中の人の動きが増し、地域内での一人当たりの総消費費単価が上がったそうです。ただし、なによりも温泉があることを必要條件とする企画からはずれないことにより露出度を落とさずにいられるという効果が大きいとのことでした。

宮津市では他にも温泉掘削やリニューアルが相次ぎ、京都府発表の観光統計では確かに入り込み数も増加しています（図1）。

図1 宮津市観光入込客数の推移

